

## 逆行

自己埋没からの反動に弾かれ  
その街の希薄な祈りから  
人々の力ない視線にも  
僕は生を認めていた？  
いや、認めようとしていた...

知ることはあれ  
感じることはない  
そんな論理的な言語を使い  
僕は表現しようとしていた？  
いや、ただなぞっていた...

衰退する自己が押し込められ  
獲とした圧力の増加に  
ふとした弾みで空間を求める  
その瞬間が犯罪としてしか在り得ぬと  
一体誰が定義したのか

無数に増殖する振動が  
様々な音となり映像となり  
五感を感わせる  
そのような世界に響きうる言葉を  
僕は絶望的に探している

(2001.9.9)